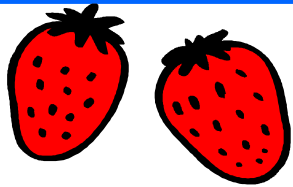




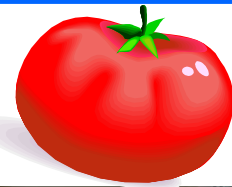
第58号  
H25年7月22日

発行 結城地域農業改良普及センター  
TEL 0296-48-0184 FAX 0296-48-2682

HP <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/noucenter/fukyu/yuki/>  
<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kensei/yuuki/index.htm>



## 次世代を担う農業者へのメッセージ！ -農業学園アグリ講座、開講-



6月11日、結城普及センターにて農業学園アグリ講座が開講し、新規就農者や若手農業者7名が参加しました。

講座は“我が家の経営とこれまでの経験～地域の担い手へのメッセージ～”と題し、講師として、農業経営士の飯岡克己氏と青年農業士の柳田浩一氏に講演していただきました。飯岡氏からは「消費者が何を求めているのかわかる農業者になってもらいたい。」、柳田氏からは「人とのつながりを作ることが大切である。」など多くのアドバイスをいただきました。

講演後は両講師を囲んで、学園生の自己紹介や栽培作物等について話した後、ざっくばらんな意見交換会を楽しんでいました。

普及センターは今後も、受講生が何か1つでも新しい知識や技術、見解を得られるような講座を開催していきます。ご興味のある方は普及センターまでご連絡ください。



意見交換会の様子



## 結城市農村青少年クラブ・鬼怒4Hクラブが トウモロコシの収穫を行いました！



7月2日に結城市農村青少年クラブが、夏季共同プロジェクトとして、トウモロコシの収穫および注文販売を行いました。当プロジェクトは、管内の幼稚園、企業および公共機関などを対象に例年行っており、地元の方々との交流を通じて、地場産業である農業の魅力を知ってもらうものです。また、消費者アンケートを実施し、消費者のニーズ把握と販売手法の検討をしています。今年は4～5月の霜害の影響で大幅に減収し、非常に限定的な活動になってしまいました。クラブ員は、「来年こそは、美味しいトウモロコシをたくさんの人にお届けしたい」と決意を新たにしていました。

7月4日には、鬼怒4Hクラブもトウモロコシの収穫・注文販売・幼稚園児を対象とした収穫体験を行いました。霜害の影響は小さく、ぎっしりと実の詰まったトウモロコシの収穫を園児は皆楽しんでいました。



調製の様子(結城市農村青少年クラブ)



収穫体験(鬼怒4Hクラブ)

# 大粒で多収の水稲新品種！-「ふくまる」現地検討会-



圃場巡回

7月8日、結城市内において、水稲新品種「ふくまる」の種子生産者及び一般生産者を対象に現地検討会を開催し、関係機関を含め合計30名が参加しました。

「ふくまる」とは、茨城県が育成した業務用向けの新品種で、大粒で食味や炊飯適性に優れる早生品種です。今年度より一般栽培が始まり、管内では約42ha栽培されています。

検討会は、種子生産者を対象とした午前の部と、一般生産者向けの午後の部に分けて開催されました。どちらの部でも、生産者の圃場を巡回して生育状況を確認した後、室内で情報交換会を行いました。

現在、県西地域でイネ縞葉枯病の発生が見られています。この病気はヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。「ふくまる」はイネ縞葉枯病にかかりやすいことから、普及センターでは、ヒメトビウンカ防除の徹底を促すとともに、10aあたり600kgの多収を達成できるように、栽培指導および情報提供を行っています。

## 情報交換会



## 秋野菜のチョウ目害虫被害軽減に向けて！



レタスやハクサイなどの秋冬野菜で問題となっているオオタバコガ、ハスモンヨトウなどチョウ目害虫の発生状況を把握するため、普及センターでは市町・JAと協力し、結城市12ヶ所、八千代町5ヶ所において、発生予察調査に取り組んでいます。

今年は梅雨明けが早く、今後のチョウ目害虫の多発が懸念されます。オオタバコガについては7月10日の調査では前週に比べて増加し、昨年よりも発生が多い状況です。

特に発生がピークとなる10月の被害を軽減するため、9月に予定している地域一斉の薬剤防除実施の呼びかけを市町やJAと協力して行っています。今後、発生予察調査の結果をもとに、一斉防除の適期をお知らせしますので、ご協力をお願いいたします。

## 病害虫ノート

## イネの収量・品質低下の主犯格！ -斑点米カメムシ・イネ縞葉枯病-

### ●斑点米カメムシ

カメムシは稲穂から養分を吸汁し、斑点米等を発生させます（右図）。水稻に加害するカメムシはごく一部の種類のカメムシ（クモヘリカメムシ等）に限られます。今年は水稻を加害するカメムシの発生が県内で多く見られることから、注意が必要です。



### ●イネ縞葉枯病

葉および葉鞘に黄緑色または黄白色の縞状の病斑を生じます。新葉が細くなって巻いたまま垂れ下がって枯れる「ゆうれい症状」が特徴的です（右図）。発病株は生育が不良となり、分けつが少なくなるほか、穂の出すくみが見られ、その後枯死します。



この病気の原因となるウイルスは、ヒメトビウンカによって媒介されます。麦畑で発生したヒメトビウンカが水田に移動することから、周辺に麦畑がある水田では、特にこの病気が発生する危険性が高いため注意してください。